

2025 年 4 月高等教育自学考试

日本文学选读试题

课程代码:00612

1. 请考生按规定用笔将所有试题的答案涂、写在答题纸上。

2. 答题前,考生务必将自己的考试课程名称、姓名、准考证号用黑色字迹的签字笔或钢笔填写在答题纸规定的位置上。

选择题部分

注意事项:

每小题选出答案后,用 2B 铅笔把答题纸上对应题目的答案标号涂黑。如需改动,用橡皮擦干净后,再选涂其他答案标号。不能答在试题卷上。

一、次の文章を読んで、後の質問に答えなさい。(本大题共 10 小题,每小题 2 分,共 20 分)

文章 I

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅雙樹の花の色、盛者必衰のことわりをあらはす。おごれる人も久しからず、唯春の夜の夢の(ア)。たけき者も遂には滅びぬ、偏に風の前の塵に同じ。

1. 上の文はある作品からの抄録である。この作品のタイトルは()である。

A 『平家物語』 B 『大鏡』 C 『栄花物語』 D 『太平記』

2. この作品のジャンルは()である。

A 歌物語 B 軍記物語 C 作り物語 D 歴史物語

3. この作品を貫く思想として、間違ったのは次の()である。

A 諸行無常 B 盛者必衰 C 因果応報 D 永久不変

4. (ア)に入る最もよいものは次のどれか。

A ごとき B ごとく C ごとし D ごとだ

文章Ⅱ

ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。広い門の下には、この男のほかにはだれもいない。ただ、所々丹塗りの剥げた大きな円柱に、きりきりすが一匹とまっている。羅生門が、朱雀大路にある以上は、この男のほかにも、雨やみをする市女笠や揉烏帽子が、もう二、三人はありそうなものである。それが、この男のほかにはだれもいない。（ア）、この二・三年、京都には、地震とか辻風とか火事とか飢饉とかいう災いがつづいて起こった。そこで洛中のさびれ方はひととおりではない。旧記によると、仏像や仏具を打ち碎いて、その丹が付いたり、金銀の箔が付いたりした木を、道端に積み重ねて、薪の料に売っていたということである。洛中がその始末であるから、羅生門の修理などは、もとよりだれも捨てて顧みる者がなかった。するとその荒れ果てたのをよいことにして、狐狸が棲む。盗人が棲む。とうとうしまいには、引き取り手のない死人を、この門へ持って来て、棄てて行くという習慣さえできた。そこで、日の目が見えなくなると、だれも気味悪がって、この門の近所へは足踏みをしないことになってしまったのである。

5.上の文章はある作品からの抄録である。この作品のタイトルは（ ）である。

- A 『藪の中』 B 『羅生門』 C 『地獄変』 D 『芋粥』

6.この作品の作者は（ ）である。

- A 泉鏡花 B 島崎藤村 C 芥川龍之介 D 川端康成

7.（ア）に入る最もよいものは次のどれか。

- A それなのに B したがって C しかも D なぜかという

と

8.「洛中」とはどこのことか。次の選択肢から選びなさい。

- A 中国の洛陽城の京域内のこと B 日本の平安京の京域内のこと
C 日本の長岡京の京域内のこと D 日本の平城京の京域内のこと

9.「盗人」は何と読むか。正しい読み方を次の選択肢から選びなさい。

- A とうじん B とうにん C ぬすびと D ぬすひと

10.次の選択肢から正しくないのを一つ選びなさい。

- A この作品は短編小説である
B 作者はこの作品で書こうとしたのは、追い詰められた限界状況に露呈する人間悪である
C 作者は耽美派の代表作家である
D この作品は古典を素材に、機知に富んだ着想で近代的に解釈し、理知により再構成した

非选择题部分

注意事項：

用黑色字迹的签字笔或钢笔将答案写在答题纸上,不能答在试题卷上。

二、次の文の下線漢字に振り仮名をつけなさい。（本大題共 10 小題，毎小題 1 分，共 10 分）

11.文三の免職と聞いて世俗的な實際家の叔母お政は態度が豹変し、文三に辛く当たるようになる。（ ）

12.踊り子エリスを知り、愛し合うが、留学仲間の中傷を受け、免職となる。（ ）

13.ただひととき目立ってこの窓から望まれるものといえば、現に丑松が奉職しているその小学校の白く塗った建築物であった。（ ）

14. 吾輩は猫である。()

15.そこで蜂・鼠・イモリの、三つの小動物の死を目撃した。()

16.旧記によると、仏像や仏具を打ち碎いて、その丹が付いたり、金銀の箔が付いたりした木を、道端に積み重ねて、薪の料に売っていたということである。()

17.今度こそ誰が敵であるかを知った漁夫たちは、再び決意を新たにして立ち上がった。
()

18.私は自分の性質が孤児根性で歪んでいると厳しい反省を重ね、その息苦しい憂鬱に堪えきれないで伊豆の旅に出る。()

19.私はその入口で立ちすくんでしまった。余りに期待がみごとに的中したからである。
()

20.数年の後、貧窮に堪えず、妻子の衣食のためについに節を屈して、再び東へ赴き、一
地方官吏の職を奉ずることになった。()

三、次の文の下線平仮名の部分を漢字に直しなさい。(本大題共 10 小題，毎小題 1 分，共 10 分)

21.落成式をあすに控えた夜、猛烈なあらしが江戸を襲う。()

22.天方伯に帰国を勧められると、豊太郎は悩みながらもしょうだくしてしまう。()

23.要するに私はしょうじきな道を歩くつもりで、つい足を滑らしたばかり者でした。
()

24.これらの小動物の死と自分の生死とを重ね合わせて、偶然にしいされる生き物の寂しさを感ずる。()

25.一人いずの旅に出てから四日目のことだった。()

26.冬の K 村を訪ねた私は人けの絶えた寂しい谷にあるべっそうで一人で暮らし始める。

()

27.李徴の自尊心をいかに傷つけたかは、そうぞうに難くない。()

28.元きぞくで、数年前に結婚に破れたかず子は母と共に静かに暮らしている。()

29.その混乱のさいちゅう、母が流れ玉に当たり、重傷を負う。()

30.みかげの好意に癒され、雄一はしょくよくと味覚を取り戻す。()

四、穴埋め。(本大題共 20 小題，毎小題 2 分，共 40 分)

31.『古事記』を誦習していた人は()である。

32.『万葉集』の三部立ては、雑歌・相聞歌・()である。

33.随筆文学の先駆で、『源氏物語』と並び日本文学史上最高級の作品は『()』である。

34.日本現存する最古の物語で、多くの民間伝承の素材を取り入れ、伝奇的要素と作り物的要素が織り重なった物語は『()』である。

35.女性に仮託し、平仮名で書かれた『土佐日記』の作者は()である。

36.「かくありし時過ぎて、世の中にいともものはかなく、とにもかくにもつかで、世に経る人ありけり」というのは『()日記』の冒頭部にあたる。

37.中世後期～近世初期に現れた短編物語で、『岩屋の草子』『酒吞童子』などを総称するジャンルは()である。

38.短歌に発して、中世に流行した韻文の形式で、複数の参加者が一座し、長句と短句を合わせて百韻で満了するのを基本とする詩歌の形態は()である。

39.『好色一代女』『日本永代蔵』などを著した人は()である。

- 40.契沖の古典研究を継承して国学を唱え、『万葉考』などすぐれた著述を残した人は（ ）である。
- 41.読本は前期は（ ）を中心地として行われた。
- 42.夏目漱石の作品の中で、熱血正義派教師を主人公とするのは『（ ）』である。
- 43.芥川の遺作となった『（ ）』は、晩年の芥川自身の痛ましい記録である。
- 44.写実主義を唱えた坪内逍遙の文学理論書は『（ ）』である。
- 45.下町の花街を背景に、思春期の少年・少女の姿をきめ細かく描いた樋口一葉の力作は『（ ）』である。
- 46.異国情緒あふれる詩集『邪宗門』や、歌集『桐の花』を書いた詩人・歌人は（ ）である。
- 47.有島武郎は（ ）主義に対する反動としておこった人道主義に立つ白樺派の最も著名な作家の一人である。
- 48.「第三の新人」と言われ、代表作に『海と毒薬』『沈黙』などがある作家は（ ）である。
- 49.夫顔治とともに日本共産党ならびに日本の戦後文化文芸活動の中心的位置に立ち、戦争中は非転向を貫き、戦後は民主主義文学運動の発足に尽力した女性作家は（ ）である。
- 50.昭和十年代の主流で、三好達治・中原中也・立原道造ら叙情詩人を輩出した詩雑誌は『（ ）』である。

五、次の内容を日本語で簡単に説明しなさい。（本大題共 2 小題，毎小題 5 分，共 10 分）

51.読本

52.心境小説

六、次の文章を現代日本語に訳しなさい。（本大題共 1 小題，10 分）

53.その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。



自考 365
www.zikao365.com